

受賞者一覧

(敬称略)

1. みんなのエコドライブ【特別テーマ】			
小学生の部			
佳作	「父や母の運転」への言葉	豊田市立中山小学校 4年	福嶋 紫乃
佳作	お父さん、お母さんのエコドライブ	豊田市立中山小学校 4年	加藤 葉月
中学生の部			
最優秀賞	エコドライバーになってほしい	豊田市立逢妻中学校 3年	高見 澪奈
優秀賞	みんなのエコドライブ	豊田市立足助中学校 2年	市川 功大
佳作	現在のエコ	豊田市立益富中学校 2年	橋本 壮一郎
佳作	地球思いの運転	豊田市立益富中学校 1年	松本 渚
佳作	みんなのエコドライブ	豊田市立益富中学校 1年	請井 栞奈
高校生の部			
佳作	みんなのエコドライブ	愛知県立豊田北高等学校 1年	榊原 啓太
佳作	みんなのエコドライブ	トヨタ工業学園 1年	山口 将史
佳作	みんなのエコドライブ	トヨタ工業学園 1年	多田 幸司
一般の部			
優秀賞	全てに優しい運転		武藤 浩之
佳作	1人ひとりができる事		井木 共治
佳作	小さなエコドラ		都築 昌嗣
佳作	エンジブレーキを有効に活用しよう		赤峰 龍徳
佳作	私のエコドライブ		森田 将樹
佳作	通勤時のエコドライブ実践記		小島 令
佳作	ドライバーとしての優しいエコ運転実践記		御辺 隆博
佳作	ドライバーとしての優しいエコ運転実践記		山口 玲奈
特別賞・家族賞			
	お母さんの運転	小学3年	松原 朱紗里
	ぼくのねがい	小学1年	松原 矢史万
	地球環境と地域活性	母	松原 貴子
2. 夢の未来都市“私のとよた”			
小学生の部			
佳作	夢の未来エコカー	豊田市立堤小学校 5年	野溝 真由
佳作	未来の豊田市	豊田市立堤小学校 5年	石川 日菜

佳作	夢の自然都市 とよた	豊田市立寿恵野小学校 5年	長坂 諒
----	------------	---------------	------

2. 夢の未来都市 “私のとよた”

中学生の部

佳作	紙でエコカー	豊田市立逢妻中学校 2年	湯浅 亜衣理
佳作	環境配慮エコカー	豊田市立逢妻中学校 2年	加藤 隼平
佳作	より良い豊田市へ	豊田市立益富中学校 2年	笹原 花
佳作	公共交通機関を考える	豊田市立足助中学校 3年	山崎 康一

高校生の部

佳作	密接な関係の豊田と下山	愛知県立豊田北高等学校 1年	古田 直樹
佳作	新しい交通システム	愛知県立松平高等学校 2年	安楽 茉侑
佳作	未来のとよたを創るために	トヨタ工業学園 1年	中山 一輝
佳作	未来の『とよた』	トヨタ工業学園 1年	道法 崇博

一般の部

最優秀賞	昨日見た夢 “私のとよた”		木村 徹
優秀賞	夢の未来都市「とよた」		永田 英徳
優秀賞	夢の未来都市 “私のとよた”		木村 英樹
優秀賞	一人一人の世界の広さ		三浦 朗
佳作	夢の未来都市 “私のとよた”		深津 悠二
佳作	究極の未来交通手段を考える		光 洋志
佳作	夢の環境都市		外山 弘明
佳作	豊田市駅前緑地公園&地下街の提案		加納 智明
佳作	小さな一歩から		成瀬 征代

3. かしこくて楽しいモビリティ（交通）活用術

小学生の部

佳作	小さなエコロジー	豊田市立堤小学校 5年	中谷 太洋
----	----------	-------------	-------

中学生の部

佳作	かしこく利用！車と自転車	豊田市立逢妻中学校 2年	三浦 明莉
佳作	地球の未来を考えて	豊田市立逢妻中学校 3年	西川 果歩

高校生の部

佳作	みんなのおいでんバス	愛知県立豊田北高等学校 1年	武藤 晴香
佳作	自転車のすすめ	愛知県立豊田北高等学校 1年	濱田 颯希
佳作	理想の交通	愛知県立松平高等学校 2年	深川 晴菜

一般の部			
優秀賞	自転車をクルマに乗せて		奥 佳樹
佳作	脱！！メタボ エコケンコープロジェクト		林 博司
佳作	楽しいインフラを提供しよう		竹葉 修平
佳作	加齢に負けない交通活用術		小木曾 祐子

4．私流エコライフ・エコスタイル			
小学生の部			
最優秀賞	梅村流エコロジーじゅつ	豊田市立中山小学校 4年	梅村 京伽
佳作	私流のエコライフ	豊田市立寿恵野小学校 5年	中西 裕香莉
中学生の部			
優秀賞	逢中のエコ活動	豊田市立逢妻中学校 1年	酒井 ちさと
佳作	地道なエコ活動	豊田市立逢妻中学校 1年	林 優一
佳作	小さな決意で命が救える	豊田市立益富中学校 2年	本田 蘭
佳作	田舎からのエコ意識	豊田市立足助中学校 2年	三宅 恵夢
高校生の部			
最優秀賞	少しのことから始めよう	愛知県立松平高等学校 2年	近藤 奈菜穂
佳作	私のエコスタイル	トヨタ工業学園 1年	坂本 尚也
一般の部			
佳作	エコスパイラル		浅井 雅代
佳作	私流 エコライフ・エコスタイルエコチャリ生活		吉村 幹
5．守り活かそう “とよたの自然”			
小学生の部			
優秀賞	仲間とつながり	豊田市立寿恵野小学校 5年	兵藤 瑞菜
佳作	自然にかこまれた通り道	豊田市立堤小学校 5年	土居 純奈
佳作	魚たちのかも川！	豊田市立寺部小学校 5年	橋本 真由
佳作	自然のみえない命	豊田市立寿恵野小学校 4年	島川 亜弓
佳作	ぼくたちにできること	豊田市立西広瀬小学校 6年	三宅 史晃
佳作	六所山の空	豊田市立古瀬間小学校 6年	笹原 健
中学生の部			
佳作	消えつつあるへぼ	豊田市立足助中学校 3年	松井 悠輔
佳作	消えていく森と命	豊田市立足助中学校 3年	都築 奏
佳作	すべての生き物に幸せな未来を	豊田市立高橋中学校 2年	長谷川 綾乃
高校生の部			
最優秀賞	四季桜の差し木	愛知県立豊田北高等学校 1年	二村 有哉

佳作	日常にある風景	愛知県立松平高等学校 2年	若松 侑季
佳作	自然と共存する町トヨタ	愛知県立豊田西高等学校 2年	岩月 優子
一般の部			
優秀賞	ふるさとの森を創る - 寿恵野の森ビオトープで子どもたちと -		林 宗弘
佳作	私の省エネに関する思い		中野 威
佳作	「Do it yourself!」これが私のエコライフ		小林 圭一

受賞作品(最優秀・優秀賞)

テーマ1：みんなのエコドライブ【特別テーマ】

『中学生の部』

最優秀賞 「エコドライバーになってほしい」 豊田市立逢妻中学校 3年 高見 湊奈

私の父は、仕事で大型トラックの運転をしたりします。トラックの運転をするときに、さまざまなエコ活動をしていると聞きました。運転中、スピードを出しすぎたり、エンジンを回しすぎると「制限速度オーバーです」とか「回転数オーバーです」といった音声が流れるそうです。そういった場合、すぐに運転に気をつけるようになると父はいいました。また、緑と赤のランプがあり、緑色のランプがついたときは、エコができており、赤色のときは、エコができていないというシステムもトラックに付いているそうです。更に、会社へ戻った後、その日の運転はどうだったか点数がでて、父は百点満点中九十点以上をとりますが、満点を目標に頑張っています。

普通の乗用車にも、トラックについているシステムがあるといいなあと思いました。そうすれば、誰もが安全運転になり、エコにもなります。普段も意識して運転しているようですが、ついスピードがでたり、アイドリングをしてしまったりするときがあります。仕事をしているときだけでなく、車に乗るときは常に注意してほしいと私は思いました。

優秀賞 「みんなのエコドライブ」 豊田市立足助中学校 2年 市川 功大

以前、父と車に乗っていると、信号でエンジンを切っていました。なぜエンジンを切るのか聞いてみると、「エコドライブをしているんだよ。」とっていました。エンジンをかける時のガソリンの消費量は、五秒程度車が止まっている時の消費量と同じくらいのため、五秒以上エンジンを切って止まっているとエコドライブになるとしていました。

足助の11月は、香嵐溪のシーズンで道路がものすごく渋滞します。僕の家は国道から少し離れた所にあります。過去に家まで排気ガスの臭いがしてきたことがありました。それだけCO₂が排出されているということです。僕は渋滞で車がほとんど動かない時は、エンジンを切るべきだと思います。

僕も数年後には、車を運転することになると思います。その時には、積極的にエコドライブを実践しようと思います。さらに、エコドライブを呼びかけて少しでも地球温暖化の進みをおくらせることができたらいいなと思います。

『一般の部』

優秀賞 「全てに優しい運転」 武藤 浩之

私の勤める勤務先では、エコドライブも交通安全対策の一環として進めています。急発進、急加速は燃費消費量の増に加え、危険な運転につながります。以前参加した交通安全講習会で、安全は挨拶からという事を教えていただきました。挨拶は人と人との間の事、なぜ車の運転に関係するのかと最初はそう思いました。しかし、ここで言う挨拶とは、車同士のコミュニケーション、すなわち車を操作する人間同士のコミュニケーションの事でした。運転は認知・判断・操作です。他車とのコミュニケーションが取れなければ、安全運転はできない。ウィンカー1つをとっても他車に合図を出し、相手の反応を見て進路を変更する、挨拶がきちんとできるという事です。この観点から見ても急発進や急加速、他車にブレーキを踏ませる様な運転は危険であり、燃費消費の増にもつながり、地球に優しい運転とは言えません。

また、業務用車の点検項目にタイヤの空気圧があります。タイヤの空気圧が低いと燃料消費のアップにつながります、と同時に、タイヤ・オイル・ラジエター・ブレーキは運転技術ではないが安全に走行するために非常に重要との認識で点検しております。交通環境、車、人には限界がある事を常に念頭に置き、状況を把握し無理な運転を避ける、しない事が安全運転の基本です。

人に優しい、地球に優しい、全てに優しい運転が安全運転と考えます、自分の安全はもとより、他人の安全を守れるドライバーに、常に優しい運転ができるドライバーを目指したいと思います。他人の安全を守る事が自分を守る事になる、自分本位な運転は、自分をも危険な状況に追い込みます。

安全運転ができるという事は生涯の財産と考えて、今後も全てに優しい運転に努めます。

町内で貸し出す自転車は皆さん大切に使われると思うので、地域活性と地球環境の為に町内貸自転車が出来たらうれしいと思います。

エコと共に昭和の人情をふたたび…。

テーマ2：夢の未来都市“私のとよた”

『一般の部』

最優秀賞 「昨日見た夢“私のとよた”」 木村 徹

昨日2030年ころの夢を見た。私のパーソナルモビリティ「Xスポーツ」は30キロ以下のスピードで走っているとホイールベースは短くセットされ、背が高く、歩くような姿勢で運転できる。視界も良く、その場で回転できるコンパクトさで駐車料金も普通の車の1/4。速度自動セットされた住宅街を抜け大通りに出た。20世紀を生きた人達には信じられないだろうが、道路には並木とガードレール兼低い照明塔しかなくこれが歩道と車道の区別をしているだけで段差もなければ溝もない。全くのフラットだ。路面は特殊ゴムで出来た水を透過する素材で大雨のときでも水溜りなどとは無縁だ。何よりも嬉しいのは冬の路面凍結が無いことだ。IR（インテリジェント ロード）という考え方で、必要な情報（温度や路上の障害物情報、車線情報、交通量、車速、等）はすべて走行中に車内で確認することが出来る。道路の役割は単にヒトやクルマを流すだけではなく、あらゆる情報や電気、ガス、水道、下水、電話通信、正にライフラインそのものだ。

今では規格化された道路が自動車工場生産されている、「Xスポーツ」は最高速度320キロまで出すことができる。高速で走る時ホイールベースは伸び、ドライビングポジションも低く、まるでF1に乗っているような感覚でドライブできる。IRが導入された道路では運転に自信のない人でも、ストレスなく安全に運転できる。

今度の休みは高速走行でも楽しもう。

優秀賞 「夢の未来都市『とよた』」 永田 英徳

私は以前、大都会に住んでいました。今は豊田市に住んでいます。

私と家内の老後の静かな生活に加えて、孫たちを育てるのに最高の環境だからです。今、子供たちは、学校でも家でも、山や野原を駆け巡り、川で魚と遊び、由緒ある神社仏閣で生きた歴史を学ぶ。皆で行動するから、助け合い、思いやりが自然に身につく。校長先生の方針はただ一つ、大きな声で挨拶しよう。

道で見知らぬ人に挨拶されると、本当に嬉しいものだ。いじめもない。引ったくりもない。変な男もいない。夜中に一人で歩いていても安心な街はそんなにあるものではない。今日は月曜日、

市の駅前商店街で楽しもう。近くのモノレールの駅まで車で行って、駐車場に入ればそこが駅だ。この町は自動車と公共交通機関との連携が素晴らしい。世界中の国々から見学者がひっきりなし。モノレールは都心から放射線状かつ円形状に、住宅街を結んでいる。モノレールの駅は高いところにあるのではなく、地上まで車両が降りてくるのだ。技術の勝利だ。年寄りに優しい配慮。駅にはいつもボランティアの人が迎えてくれる。

都心では、地下に大駐車場、商店街には車侵入禁止。商店への荷物の搬入は夜11時から朝10時まで。みんなが少しずつ不便を我慢して、楽しく安全な街を作っている。駅前商店街は、楽しい。でもまずは、全国的に、いやトヨタ自動車のおかげで世界的に有名になった拳母神社へお参り。十月の拳母まつりは、それはそれは盛大で子供たちは山車の上の若者を尊敬の眼差しで見上げ、先導役の年寄り、子供達を、厳しく、優しく指導する。ひとり一人を育てるお祭りだ。

さて、お参りのあとは何処へ行こうか。グランパスの店。クラシックの店、画廊、全国47県店。何処へ行っても楽しもうか。世界の主な国の店もある。衣・食・住、全てがリサイクル循環型社会が出来つつあるから、贅沢を言わなければ仕事はいくらでもあるし、生活に困ることは無い。

老若男女、皆が安心して、楽しく生活できる町だから、日本はもとより、世界中から人が集まって「豊田」はもうすぐ、人口500万人の町になるよ。間違いない、と大声で叫んだら、目が覚めた。それはすがすがしい朝だった。

優秀賞 「夢の未来都市“私のとよた”」 木村 英樹

時代と共に変化していく街、私たちが安心して暮らせる、美しく安全で快適な街とは。少子高齢化が進む中、お年寄りと子供、そして子育てをする親に配慮した街づくりと未来都市をこのとよたに期待したい。

車の街として有名な豊田市だが、今後ガソリン車からハイブリット車へ将来的には、電気自動車へ変わっていく未来のクルマ。車に何人乗せて走るのかと統計を取ると平均1.2人ほとんどが運転者1人のためにあるようなものである。そんな現状で考えると未来のクルマは、パーソナルモビリティが主流となり1人乗りの車があればいい時代になる。また、カーシェアリングが今よりもっと普及して大型車を数台設置してあるマンションやショップが増えカーシェアリングで住民たちが共有化する。

未来のクルマは、自転車化していき手軽なものになっていく。そして、未来のクルマは、地下道路を利用、走行し目的地をインプットすれば自動走行で目的地まで正確に時間通りに連れてってくれる。行き先に迷うことなく、決して事故も起こさない地下道路システム。地上では、緑や公園、庭園が広がりCO₂も減り、自然があふれ、子供たちが遊び高齢者が安心して散歩ができる・・・

そんな未来都市「とよた」でありたいと願う。

優秀賞 「一人一人の世界の広さ」 三浦 朗

僕が小学生の時に夢見たこと。自転車で行ける範囲が世界の全てだった頃。自転車だけの道があるといいな。子どもでも運転できるクルマが欲しい。しかしまだまだそんな夢は実現していないようだ。クルマの道はたくさんできたが、自転車が安心して走れる道はもっと増えてもいい。子どもが運転できるクルマは無理でも、塾に行く子、遊びに行く子、誰でも自由に乗れる、コミュニティの中をゆっくり巡回する乗り物なら実現できるはずだ。万博で走っていたグローバルトラムのような優しい交通システムが欲しい。

大人になった僕が考えること。今の僕は仕事で海外にも出かける。豊田は世界への出発点。空港に行く時など、CO₂の排出量やかかる時間を加味した最適な交通手段や乗り換え方法を素早く知りたい。クルマのまちだからこそ、クルマだけでなく鉄道やバスとの連携をスマートに行いたい。最新の情報技術なら、カーナビからパークアンドライド用の駐車場や、空港バスの予約だってできるはずだ。

そして……。僕の父は74歳。足を悪くしたので長く歩き続けることはできない。それでも彼は散歩に出かける。ゆっくり、休み休み歩く。とても小さな日常の世界。でも、風の香りや木々の色に季節を感じながら歩く。父のような人が安心して歩け、気の向くままベンチで休憩できるような気持ちの良い歩道がもっと増えたら。父よりさらに歩くのが辛い人のためには、一人乗りのEVも普及させ、外出の機会を増やしてあげたい。専用道路もつくって。

豊田に住むすべての人が微笑みながら暮らせるように。一人一人の世界の広さにフィットするまち。それが今の僕の一番大きな夢。

テーマ3：かしこくて楽しいモビリティ（交通）活用術

『一般の部』

優秀賞 「自転車をクルマに乗せて」 奥 佳樹

行動範囲は、歳を重ねるごとに広がっていく。それは、生活するエリアと移動手段の多様化に因るところが大きい。

小学生の頃は学区内にとどまっていたものが、高校に入ると電車で通学するようになり、生活圏も広がった。行動範囲が格段に変化するの、クルマの運転免許の取得からである。クルマは、行動範囲を大きく広げ、目的地までの移動時間を短縮する。ただ、一度クルマの生活に浸かってしまうと、距離の遠近にかかわらず、ついクルマに頼ってしまう。

最近、自転車を買った。自転車には乗らなくなって久しい。健康のためとか、通勤手段とか、競技としてという訳ではなく、ただクルマを降りて乗ってみたくなったからだ。自転車をクルマに積んで出かける。クルマの通れない小径は、自転車に乗り換える。気まぐれで古い街並みに立ち入ると、新しい発見があった。「この古い蔵は、河川の氾濫から守るように垣が積まれているのだろうか」などと地域の歴史に思いを巡らせた。

振り返ると、時間や距離と引き換えにしたものが少なからずある。自転車に乗ってみると、クルマの視点では見えないものに改めて気づく。それは歴史であったり、自然であったり様々だ。ペダルを漕ぎながら、風で季節の移り変わりを感じた。頬を伝う冬の冷たい風が、何とも心地良い。

テーマ4：私流エコライフ・エコスタイル

『小学生の部』

最優秀賞 「梅村流エコロジーじゅつ」 豊田市立中山小学校 4年 梅村 京伽

私はいつも、なにかエコロジーにつながる事はないかと思っています。なぜなら、一つのどりよくで、たくさんの生き物が救えるからです。

私は丸い形のマイクロファイバーそざいのタオルをたくさんもっています。そのタオルは、すぐかわくので、せんたくのひつようがありません。これが、色々なタオルにつかわれれば、水のむだぼうしになります。

ほかに、6時間で自動的に切れるホットカーペットをつけています。つけっぱなしにしても、切れるので、電気のむだぼうしになります。加しつきのかわりにしょくぶつもおいています。電気のむだもふせげるし、なごみますから、一石二鳥です。

近いところは自転車やと歩です。ガソリンのむだぼうしになります。

こうして、エコロジーをしていると、エコが身について、習かんになり、楽しくなります。

自分流は大好きです。自然と、自分からできるからです。これからも、自分流をたくさん作っていきたいです。

優秀賞 「逢中のエコ活動」 豊田市立逢妻中学校 1年 酒井 ちさと

私が通う逢妻中学校では、毎週火曜日に、アルミカン回収、木曜日には、古新聞・牛乳パックの回収をおこなっています。私は逢中に入學してこの活動をした時「毎週やっているのはすごい」と思いました。

理由は二つあります。一つ目は、毎週絶対にアルミカンと古新聞・牛乳パックが、たくさんあつまることです。これは学校全体が団結しているからできることだと思います。二つ目は、一人もめんどくさがらずにやるところです。この活動は、環境委員会の人達が、活動の前の日の帰りの会で連らくしてくれているので、生徒のみんなは「明日は、アルミカン回収だな」と思って明日アルミカンなどを持ってきてくれます。

他にも逢中では、毎年全校生徒で「逢妻女川クリーン活動をおこなっています。年に一度ですが、みんな一人ひとりが、笑顔で、友達と楽しく川をきれいにしています。私はこの逢中のエコなところ、自然とのふれ合いが全校生徒で楽しめるところが大好きです。豊田市内でもこのような環境にやさしい学校が増えたら、川もきれいになるし、豊田市もきれいになって良いなあと思いました。

『高校生の部』

最優秀賞 「少しのことから始めよう」 愛知県立松平高等学校 2年 近藤 奈菜穂

私は、日頃からゴミを見つけたら思い切って捨てることを心がけています。それは、少しでも環境にやさしくありたいという思いからです。他にも、ありきたりのことですが、裏が白紙になっているプリントは捨てずに使ったり、ゴミの分別を意識的に行ったりしています。これらのことも、少しでも環境にやさしくありたいという思いからです。

最近、道を歩いているとゴミが捨てられているのを見ることが多くなりました。さらに、堂々と車からポイ捨てをしているのを見ることもあります。これらのことは、気分の良いことではありません。私は、こういった場面を見ると悲しくなります。一人一人が意識してゴミを持ち帰って捨てるだけでいいのと思います。誰もこういう行為をしなければ、道を歩いているとゴミを見かけることもなくなるのです。

ですから皆さんにも、環境にやさしい活動をするを心がけて欲しいのです。環境にやさしい活動をする、たとえば落ちているゴミを捨てることなんて恥ずかしいと思いかもしれません。ですが、それは決して恥ずかしいことではないのです。自分で出したゴミは絶対に持ち帰る。落ちているゴミをなるべく捨てる。本当に、自分で出来る範囲での活動でいいのです。ゴミ箱が近くにあった時だけでもいいのです。こういった小さな活動が、環境を守ることに繋がっていくのです。

これからも、私はこのことを心がけて過ごしていきたいです。皆が環境にやさしい、そんな世の中になって欲しいです。

『一般の部』

テーマ5：守り活かそう“とよたの自然”

『小学生の部』

優秀賞 「仲間とつながり」 豊田市立寿恵野小学校 5年 兵藤 瑞菜

私は、五年生になってビオトープ部に入いった。そのきっかけは、昨年まっ黒になり、くさくなかった水車をきれいにし、動かなかった水車を動くようにしたことだ。それと、ゴミやザリガニでいっぱい浅池や、ヘドロにまみれた深池の水をぬき、ドロにまみれてきれいにした。そのときは、すごくくさかったけど、一人ではなかったのがんばれた。仲間といっしょになってがんばれたことは、楽しかったし、気持ちがよかった。そしてまた、いろいろな事に出会い経験をした。

今年は、学校ビオトープができて十周年だったこともあって、ビオトープに遊歩道を作った。何もなかった所に、竹で道を作ってなたで、木のくいを作った。そんな時に、なたでけがをした子がいて、とても大変な作業だった。でも、いろいろな作業をすることによってCOP10にかかわる事業の一つである市民ブースの一画で、私たちの活動を、げきで発表することが出来た。仲間といっしょに出来た事が、いい思い出になった。

また、そこに参加することによって、他のブースのマイはし作りを体験した。細いヒノキを、小さなかなでけずり、やすりでこすって、はしの形にし、オリーブオイルをぬって、つやをだした。時間がなくて、お店の人にほとんど手伝ってもらったが、私はこのマイはしが、とても気に入っている。そして、学校に持っていつている。はし箱を開けると、ほんのりヒノキのにおいがして、COP10を思い出す。

何かを始めると、いろいろな体験につながってくる。これからも、仲間といっしょに、いろいろなことをして、視野を広げたい。”

『高校生の部』

最優秀賞 「四季桜の差し木」 愛知県立豊田北高等学校 1年 二村 有哉

僕の住む小原地区には、秋に花を咲かせる四季桜という珍しい桜があります。秋になると紅葉と重なり、とてもきれいな景色になります。僕の通っていた小原中学校では入学してすぐに、四季桜の差し木をします。地域の方々に教えてもらいながら、大きな桜の木の枝の先を切り、切り目に、発根剤を付けてプランターに植えます。そして学年で水やり当番などを決めて育てました。最初は、本当に成長するのか疑問に思っていました。少しずつ成長して行く姿を見てすごいと思いました。三年間、世話を続け、卒業式の日、一人一本自分達が育てた苗を持ち帰りました。入学した時には、親指程度だった苗が卒業する時には、自分の背を超えるほど大きくなっていった事にとっても驚きました。家に持ち帰った四季桜の苗は、祖父といっしょに、庭に植えました。

四季桜の差し木という行事は、とてもよい行事だと思います。自然を守る事にも繋がるし、地域の文化や伝統を、繋げていく事にも協力できるからです。自分で四季桜を育てたことは、形として残るとてもよい思い出です。

高校生になった今でも、自分で育てた苗を見ると、中学生の時の事を思い出します。大人になってからも、この木を見て、昔の自分を思い出したいと思います。

『一般の部』

優秀賞 「ふるさとの森を創る - 寿恵野の森ビオトープで子どもたちと - 」 林 宗弘

私の朝は寿恵野の森ビオトープの散歩から始まる。子ども達と敷いたウッドチップの散策路を歩くと、ヒヨドリやムクドリが樹上から迎えてくれる。時にはアオサギが飛び立って驚かされることもある。池のタニシをねらってきたのだ。

池から流れ出た水は、70m程の小川となって明治用水に吸い込まれていく。手を入れると温もりを感じる水は、地下 60mから汲み上げられたものだ。10 年前に造成されたこの学校ビオトープを「寿恵野の森ビオトープ」と名付け、整備し始めたのは去年のことだ。今年は、ビオトープ部という部活動を立ち上げた。

ビオトープ部に集まった子ども達は、総勢 50 名。伸び過ぎたヒノキを伐採して小川や池に橋をかけ、流れの速い小川にワンドを造り、池の水を全て抜いて泥出しをし・・・今夏の猛暑の中でも汗まみれで働いた。子ども達の手が豆が増える毎に、唐鍬や鉞の熟練度が増していくのが頼もしく、微笑ましい。

かつてはどこにでも生息した「川がき」こそ、いま最も絶滅を危惧される存在だと言う。しかし、寿恵野小学校には、「川がき」ならぬ「ビオトープがき」が何人もいる。放課になると網を片手に池のメダカをのぞき込み、ゴマダラチョウの幼虫の「黄葉」を夢中で見つめ、スタジイのどんぐりを集めて頬張り・・・樹上から降ってきたアオダイショウに驚きながらも、自分たちが造った橋にアオダイショウ橋の名前を付けて嬉々として笑う愛すべき「がき」達。彼らの目の輝きは、かつて野山をかけ回り、川に飛び込んだ「川がき」達のそれだ。

いま力を入れているのは「ふるさとの森」創りだ。「寿恵野の森」とは言うものの、樹種は園芸種が多い。本来、この地に生育するコナラ、アラカシ、ツブラジイ、ヤマザクラ、林床にはヤブニッケイ、ヤブラン、サカキなどを植樹し、「これが寿恵野の森、ふるさとの森だよ」と呼べる森を創り始めている。

10 年後、かつての「ビオトープがき」たちが、環境活動に取り組む青年に成長し「寿恵野の森ビオトープ」に集う。「ここが自分達の原点だよ」と、そんな会話をする様子を夢見ながら、今日もビオトープを歩く。

折からの風にミゾソバの群生が揺れ、ピンク色のさざめきが聞こえた。

